

## 【RBA 金融政策委員会（23年8月）】

### 2 会合連続ですえ置き

～政策金利は今後もすえ置かれると予想～



経済調査部 エコノミスト  
木村 彩月

#### ポイント

- RBA は、8月1日開催の金融政策委員会で政策金利のすえ置きを決定
- 今回の金融政策報告書では、年後半にかけて賃金はさらに上昇するとの予測を示し、サービス価格は当面高止まりが続くとしている
- もっとも、足元のインフレ率はRBAが想定していた以上に鈍化している。今後、RBAが示したインフレ見通しから大きく上振れない限り、政策金利はすえ置かれるとみる

#### 1. RBAは2会合連続で政策金利をすえ置き

RBA（豪州準備銀行）は、8月1日に開催された金融政策委員会で、政策金利を4.10%にすえ置くことを決定した（図表1）。政策金利のすえ置きは、これで2会合連続となる。声明文では、「経済の見通しの不確実性を考慮した」と、すえ置きの理由を説明した。また、今回の決定により、「これまでの金利上昇の影響と経済の見通しを評価するためのさらなる時間を得ることができる」との考えを示した。

今後の金融政策については、データ次第としつつも、「インフレ率が適切な期間内に目標（2～3%）まで低下することを確実にするためには、さらなる金融引き締めが必要になるかもしれない」と、前回会合同様に再利上げに含みを持たせた。

なお、9月に任期を終えるロウ総裁の後任として、RBA初の女性総裁となるブロック現副総裁が就任することとなった。10月会合以降は、ブロック氏のもとで金融政策のかじ取りが行なわれる。



#### 2. 金融政策報告書では実質 GDP 成長率が下方修正

RBAは、8月4日に経済見通しなどをまとめた金融政策報告書を公表した。実質 GDP 成長率は、2023年4-6月期（5月：前年同期比+1.7%→8月：同+1.6%）から2025年4-6月期（同+2.1%→同+2.0%）にわたって下

方修正された(図表2)。2023年については、物価高と利上げが引き続き内需を圧迫するため景気が抑制されるものの、その後は、こうした逆風の緩和と家計資産の持ち直しに下支えされることで、景気は緩やかに回復するとしている。

インフレ率の見通しは、2023年4-6月期(5月:前年同期比+6.3%→8月:同+6.0%)、10-12月期(同+4.5%→同+4.1%)が下方修正された。一方、2024年10-12月期(同+3.2%→同+3.3%)、2025年4-6月期(同+3.0%→同+3.1%)は上方修正された。豪州の4-6月期CPI(消費者物価指数)の伸びは同+6.0%となり、2四半期連続で鈍化した(図表3)。RBAは、世界的なコスト上昇圧力の緩和と内需の減速が国内の製品価格に波及しており、財価格は今後いっそう低下するとしている。一方、労働市場のひっ迫や最低賃金の引上げを背景とする賃金上昇により、サービス価格は今後数四半期にわたって高水準で推移するとしている。特に家賃は、人口増加などを背景とした賃貸市場のひっ迫により高止まりが続くとしている。

失業率の見通しは、2023年10-12月期(5月:4.0%→8月:3.9%)のみ上方修正(改善)され、それ以外の期間は前回からすえ置かれた。豪州の6月の失業率は3.5%と、約50年ぶりの低水準で推移している(図表4)。雇用者数も前月比+3.3万人と、フルタイム雇用を中心に増加基調が続いている。RBAは、足元の労働市場について、「依然としてひっ迫している」との認識を示したが、先行きについては、「経済成長の鈍化により、ひっ迫は緩和する」とし、失業率は2025年半ばにかけて期を追うごとに悪化に向かうとの見通しを示した。

### 3. RBAは今後も政策金利をすえ置く

今月の政策金利のすえ置き決定は、これまでの累積的な利上げの影響が時間差を伴って实体经济に現れるなか、その影響を見極める時間を設けたものであり、必ずしも今回の利上げ局面の終了を意味するものではない。今回の金融政策報告書では、サービス価格は当面高止まりが続くとしている。今後サービス価格の上昇が上振れ、RBAが再び利上げを余儀なくされる可能性は依然として残る。ただ、同報告書においては、現在の政策金利の水準が景気抑制的であるとの認識が示されている。また、足元のインフレ率は前回5月の報告書で示された予測以上に鈍化している。今月の声明文でも、「最近のデータは、インフレ率が予測期間内に2~3%の目標まで低下することと整合的である」との考えが示され、今後、RBAが示した見通しからインフレ率が大きく上振れる可能性は低いとみており、6月会合を最後に利上げサイクルは終了したというのがメインシナリオである。

(図表2) RBA「金融政策報告書」経済見通し

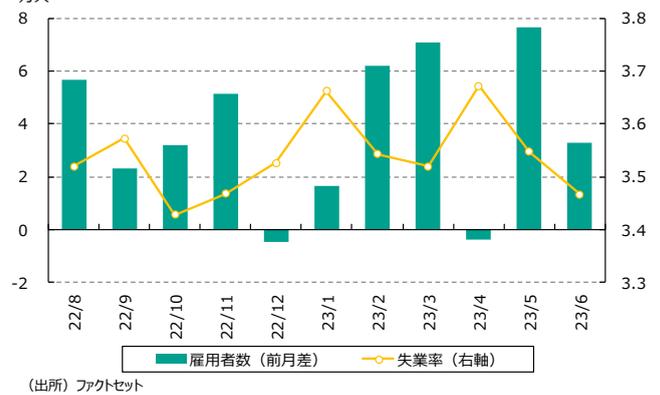
※失業率以外は前年同期比	8月見通し						(前回)5月見通し				
	23年6月	23年12月	24年6月	24年12月	25年6月	25年12月	23年6月	23年12月	24年6月	24年12月	25年6月
実質GDP成長率	1.6	0.9	1.3	1.6	2.0	2.3	1.7	1.2	1.4	1.7	2.1
CPI	6.0	4.1	3.6	3.3	3.1	2.8	6.3	4.5	3.6	3.2	3.0
失業率	3.6	3.9	4.2	4.4	4.5	4.5	3.6	4.0	4.2	4.4	4.5

(出所) RBA

(図表3) 豪州 CPIの推移(前年比)



(図表4) 雇用者数および失業率の推移



※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先●株式会社明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411